

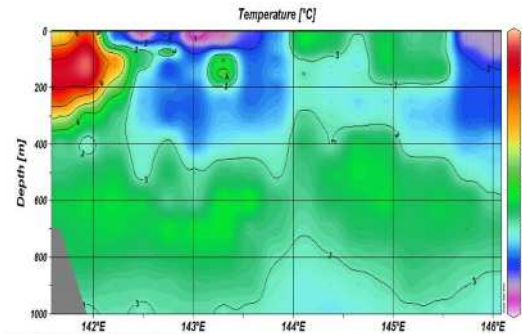
2014年尻屋東方海域の水温観測について

海上自衛隊大湊地方總監部 福田 正美

1 はじめに

海上自衛隊では、尻屋沖東方海域の北緯41度25分、東経141度40分から東経146度00分までの東西ラインの水温観測を民間観測船等により毎年実施しています。

今年は、2月、5月及び9月の観測結果から水温断面図を作成し、海流図及び表面水温図を参考に津軽暖流及び親潮の動向について発表します。



2 観測結果からの動向

(1) 2月11日～12日

ア 暖域

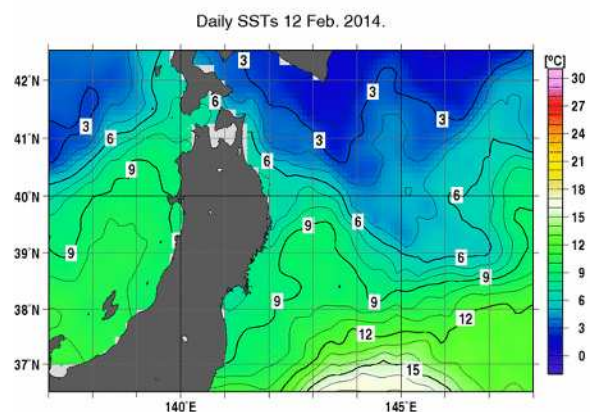
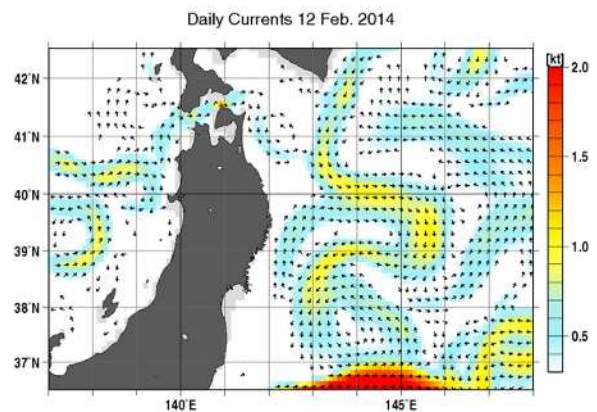
津軽暖流と思われる暖水域は、東経142度より西側の陸岸付近に流出し、水深300m付近まで沈降しています。

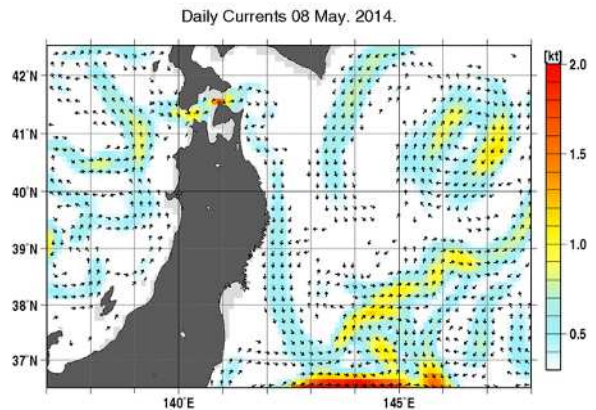
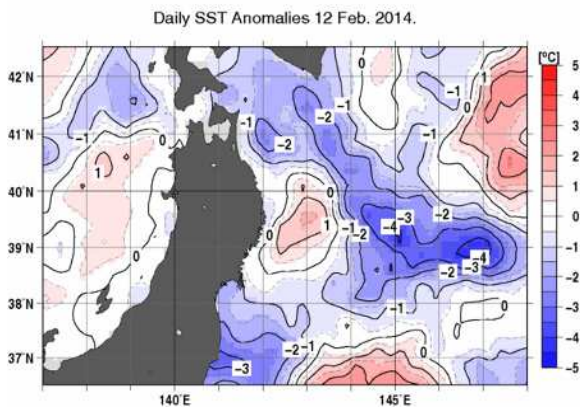
イ 寒域

東経142度30分から東経143度40分付近及び東経145度30分から東側にかけて寒域があり、親潮と思われる冷水域が東経143度付近及び東経146度付近に見られます。

ウ 衛星等解析

親潮の沿岸寄りの分枝は、北緯41度20分、東経143度30分付近から南東へ流出し、北緯39度、東経145度付近から南西方向へ向きを変え流出、北緯37度、東経141度30分付近の沿岸部で水温が低下しており、親潮の面積は、平年よりかなり大きい状態が続いています。





(2) 5月7日～5月8日

ア 暖域

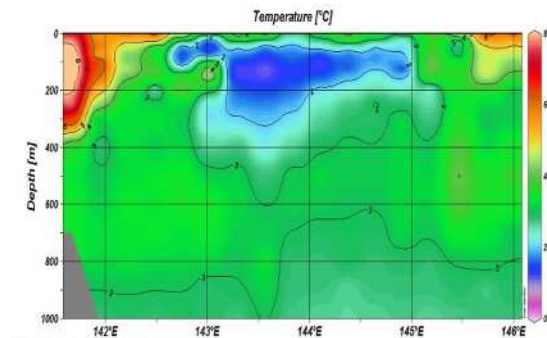
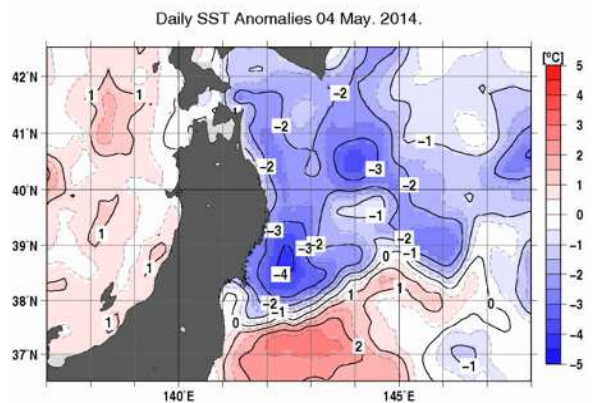
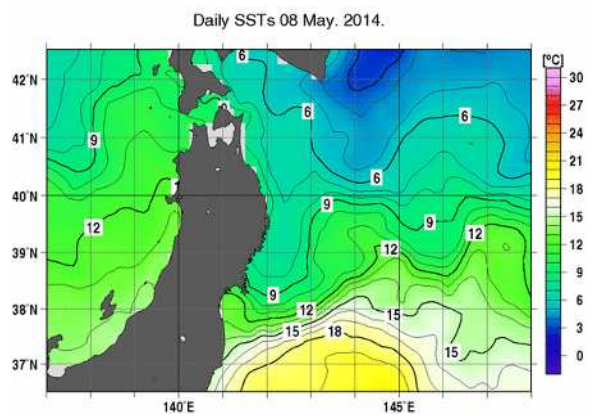
津軽暖流の東への張り出しは、大きな変化はありませんが、東経142度から東経143度付近の水深200mから400m付近で水温が上昇してきました。

イ 寒域

寒域の西端は、東経143度10分付近と前回より東へ移動し、そこから東経145度付近に解析され、親潮の沿岸分枝と思われる軸が東経143度30分付近に見られます。

ウ 衛星等解析

水温から親潮と思われる冷水域が北緯40度30分、東経144度付近から南西へ流出し、北緯38度30分、東経142度30分の宮城県沿岸まで南下しています。



(3) 8月31日～9月1日

このスライドは、1～2枚目のスライドとは、水温のスケールが違っているので注意が必要ですが、季節は夏となり津軽東口付近の表面付近の水温も上昇してきました。

ア 暖域

津軽暖流の張り出しは東側に拡大し、

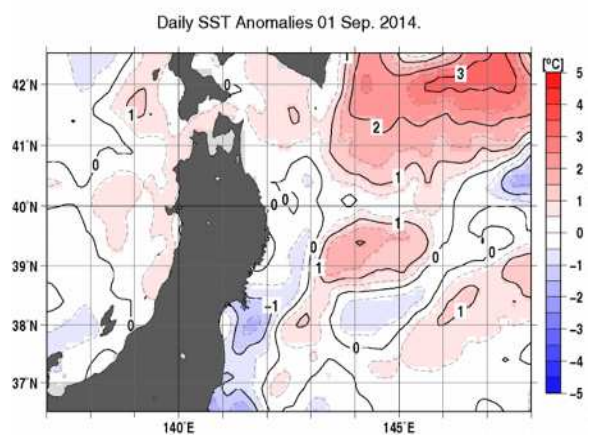
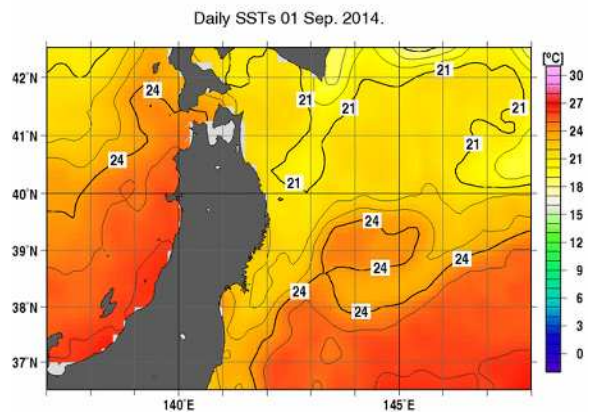
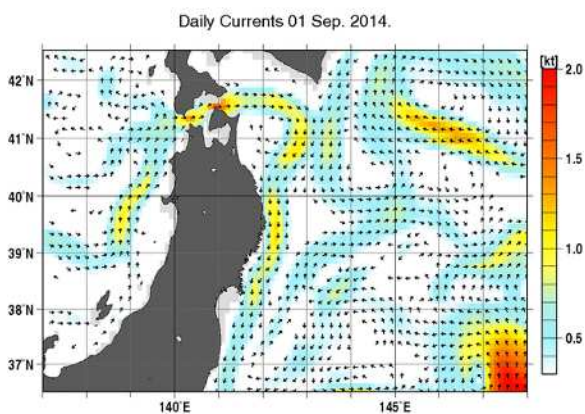
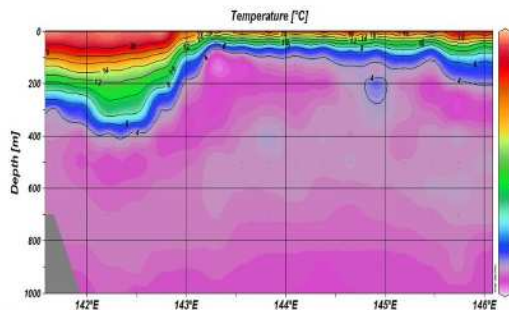
陸岸付近では水深350m付近まで沈降しています。

イ 寒域

東経143度20分から東側の水深200m付近及び東経145度30分から東側の水深300m付近に冷水域が見られます。

ウ 衛星等解析

親潮の沿岸寄りの分枝は、北緯39度30分、東経143度付近、沖合の分枝が北緯40度30分、東経148度付近に分布し、親潮の面積は、平年より小さくなりました。



3 まとめ

今年度の本州東方海上の海面水温は、三陸沖で平年より低い状況で経過しており、海面水温の上昇も平年に比べ鈍くなっていました。

また、親潮の面積は、8月中旬頃までは平年よりかなり大きい状態が続きました。

なお、8月中旬には、釧路沖には暖水域が形成されるなど報道によると津軽海峡周辺及び道東の漁業に影響がありました。